

平成 25 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075300204		
法人名	医療法人 社団 親和会		
事業所名	グループホーム きんもくせい		
所在地	鞍手郡小竹町勝野4202-7		
自己評価作成日	平成25年 9月6日		平成25年9月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成25年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様1人1人の生活ペースを重視し、安心安全で1日をゆったりと過ごすことが出来るようにしている。季節ごとの行事を計画して、利用者様全員が気分転換出来るように楽しんでもらえるようにしている。運営推進会議で、利用者様の毎日の生活ぶりや行事報告を行い、ホームの行事や地域行事の情報提供がなされ、サービスの向上に生かしている。また、外部研修会に参加しホーム内で勉強をしている。又月1回避難訓練をして災害時スタッフ全員が動けるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームきんもくせいは開所9年が経過し、覚えやすく見直した理念の「その人らしい生活」について、入居者の「自宅に帰りたい」「自由に暮らしたい」との思いを十分に理解しながら、日々支援に努めている。食器洗いや下げ膳で役割探しや役割づくりを支援したり、家族の参加や地域のボランティアの協力で外出を支援している。また、系列の医療法人等との円滑な連携もあり、「入居者が安心して過ごしている」と家族から意見が出ている。日頃の気づきを毎日話し合う時間の確保や介護福祉士等の資格取得を目指す職員も多く、理念の自己研鑽や専門性を高める体制づくりをしている。公民館まつりや地域サロンへの参加が継続し、近隣にホーム便りを配布し、日ごろの暮らしぶりを広報するなど地域交流に努め、さらなる理念の具現化が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 さくら／グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回のホームカンファレンスを行い、その都度、職員が声に出して理念を読み上げ、理念の大切さを再確認している。	覚えやすく見直した理念を廊下に掲示している。理念に謳った「その人らしい生活」について、各入居者は今どうしたいのかを模索しながら、毎日を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の行事等に参加している。週1回又は2週間に1回ボランティアの方に来ていただいて、習字やカルタをしたり、本の読み聞かせや紙芝居をしていただいている。	地域公民館まつりに入居者の習字を出展する予定で、地域サロンの参加も継続している。ホーム便りを近隣に配布し、日ごろの暮らしぶりを広報している。昨今、隣接の介護保険施設の見学に併せて、ホームを地域老人会が訪問し、顔見知りの方が入居しているとの話もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	役場や福祉協議会、いきいきサロン等へ参加して地域の高齢者の役に立てるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催し、利用者の状態やサービスの取り組み内容を報告し、意見交換やアドバイスを受け、サービス向上に生かしている。	地域代表、町担当者、家族等の参加で定期的に開催し、議事録を整備している。入居時に家族に会議の参加をお願いし、家族代表者に開催日時を案内している。会議では避難訓練やヒヤリハット事例等を報告し、参加者から地域の情報が提供され、内容は事務室前に公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実状やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センターの声かけで、同業者の集いが再開している。入居情報を提供するなど、日頃から連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に勉強をする事で言葉かけなども含めて、問題になる行為をしないように努めており、身体拘束はしていない。	身体拘束に関するマニュアルを整備し、具体的な行為について、職員に周知している。入居者の「自宅に帰りたい」「自由に暮らしたい」との思いを十分に理解しながら、自宅を見に出かけたり、後からついて行くこともある。出口にチャイムを設置し、玄関前の事務室から目配りや見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開き、常に介護時の対応に注意して、言葉かけなどにも気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会での資料を活用し、スタッフが勉強して、成年後見制度の手引きを玄関前に閲覧できるようにしている。	以前、成年後見制度を利用していた入居者もいたため、制度について理解している。現在は、日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用者はいない。	今後は多様な家族状況が予測されることから、日常生活自立支援事業のパンフレット等を整備し、内部学習会等で内容の周知をお願いします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に記載した内容を契約時に説明し、解らない点などは再度説明して、理解・納得した上で契約の同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置したり、こちらから家族に働きかけ、意見などが発言されやすいような雰囲気作りをしている。	家族の会はないが、定期的にホームだよりを家族に配布したり、訪問された家族から意見を伺っている。運営推進会議に交代で参加していただき、ホームの運営を報告している。家族からは、「入居者が安心して過ごしている。」との意見が出ている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のホームカンファレンスで、職員から意見や提案、問題点などを聞く機会を設けている。	ホーム行事の企画案は、隣接の介護保険施設の事務長の承認を得ているが、管理者を通じて職員の意見や意向が反映できる体制づくりがある。トイレには職員の提案でポケット付きの壁掛けにリハビリパンツが入れられ、介助を円滑にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会・ホーム内での勉強会を開催し、職員が各自向上心を持って働けるように努力している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、年齢・性別の制限はなく、人柄や意欲を重視している。事業所で働く職員に対しては、交代で昼休みをとったり、月2回の希望休の配慮をして、生き生きと働ける環境を整えている。	ハローワークや民間求人紙等で募集している。管理者も面接に同席し、資格ではなく人柄や高齢者の話しに耳を傾けることができるかを重視している。20～60歳の男女の職員が雇用され、介護福祉士等の資格取得を目指す職員も多く、働きやすい環境づくりをしている。法人内の介護サービス事業所間やホームのユニット間の異動もあるが、本人の希望や意向も検討されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念に「利用者様の尊厳を大切にします」と入れており、勉強会で人権に対するいしきを共有して、人権を尊重し、穏やかで楽しい暮らしが出来るように支援している。	理念を具現化するために、勉強会を開催したり、日ごろの気づきをミーティングで共有している。職員の大きな声が入居者に与える影響に配慮し、ケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて外部の研修へ参加し、その都度伝達講習を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小竹町のグループホームの集いに参加して意見交換したり、福岡県グループホーム協議会の研修・社会福祉協議会の研修に参加して、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に困っている事や不安がないか、出来るだけ話しを聞く機会を多く持ち、対応出来るようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や契約時、家族が困っている事、不安に思っている事を管理者を中心に話を聞く機会をつくり、対応出来るように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話を聞き、現在利用しているサービスの担当者及びかかりつけ医等から、情報・意見を聞き、どんなサービスが良いか見極め対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が過ごして来た人生を大切に、喜怒哀楽を共にして、本人から色々なことを聞いて学び、力になることが出来るように努め、安心できる関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を密にして利用者様の今の気持ちや、気付いたことを伝え、又家族の不安・要望を伺い、共に支え合う関係を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の希望に沿えるように外出の機会を設け、馴染みの人や場所との関係が継続出来、関係が途切れずに安心できるように支援している。	おやつを持参して来訪する地域の方や、お弁当持参で来訪した妻と居室で昼食を摂る入居者もある。全職員で来訪を歓迎する声かけや対応をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が楽しく安心して生活できるように、共通の趣味や話が出来るように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気により入院になると、面会にて状態の把握を行い、家族との付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らし方など多くの情報を集め、利用者様の希望に沿った生活が出来るように努めている。	センター方式シートを活用し、把握した思いや意向を記載し、情報の共有に努めている。毎日、職員の気づきを話し合う時間を設け、理念のその人らしい生活の継続を支援している。	整備したシートを活用し、職員の気づきや把握した入居者の思いや意向を定期的書き加えて、さらなる思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様・家族より情報を収集し、センター方式を活用して、サービスの活用に生かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様・家族から情報を得て、1日の過ごし方をセンター方式シートに記入し、又日頃の生活状況を見て情報収集し、総合的に状態が把握できるように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心に、利用者様や家族の意向・職員の気づきや意見を収集して話し合い、介護計画を作成している。定期的な見直し、状態の変化に応じて家族と相談し介護計画を作成している。	入居者や家族の意向を伺いながら、入居者の状況に応じた役割や楽しみを实践する計画の作成や見直しをしている。ミーティング等で、入居者の反応や職員の気づきが話し合われ、介護計画作成担当者が実施状況を記載している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・プランに沿った内容を、個別に記録し情報を共有して、実践・介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・家族の希望に応じ、介護保険の更新手続き・病院受診等の支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の意向や必要に応じて、ボランティアの協力にて習字・カルタや読み聞かせ・琴の演奏・紙芝居等の訪問を受けている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・家族の希望に応じ、介護保険の更新手続き・病院受診等の支援を行っている。希望に沿えるように、医療機関の確認を行い対応している。協力医療機関への受診や月2回の往診による支援を行っている。	系列の医療法人が協力医療機関として健康管理を支援しているため、入居者や家族の安心を得ている。管理者が看護師でもあり、入居者の日ごとの状況を適切に医療機関に報告したり指示を受けるなど、円滑な連携を取っている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態や変化をすぐに看護師に報告し、協力病院の看護師と相談しながら支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努め、対応している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、利用者様・家族の希望を聞き、事業所としての方針を説明・共有しながら、出来る限り長い時間をホームで暮らすことが出来るように支援している。	整備した重度化した場合における対応方針や、緊急時や病状不安定な場合の詳細な対応を、入居時に説明している。看取りについては、協力医療機関等による対応をしており、退居後に逝去された入居者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応に備えて、マニュアルを作成して勉強会をしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練を年2回行っている。それ以外自主訓練を行い非常時スタッフ1人1人がすぐに対応出来るようにしている。又地域の方への災害時緊急連絡の協力を得られるように体制作りをしていく。	前回の夜間想定避難訓練は、緊急通報システム等の設置業者や家族の参加があった。火災を知らせる職員の声が小さいことや消火器の使い方などが、訓練後の課題として挙げられ、運営推進会議でも報告されている。食品や飲料水等が備蓄され、定期的に入れ替えを行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応には常に気を付け、記録等の個人情報の取り扱いには問題が起きないように、マニュアルに沿って対応している。	理念に謳っている入居者の尊厳に配慮するケアを実践するために、気持ちを聞きながら、やさしく接するように努めている。日ごろから言葉づかいや声の大きさを職員同士で注意し合い、職員の気づきを促している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えに優しく耳を傾け、話を聞くように心がけ、自分で決め納得出来るように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活ペースに合わせて、希望に沿うことが出来るように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を自分で選んで着用して貰っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを把握し、温かい出来立てをおいしく食べて頂いている。限られた人ではあるが、準備は野菜刻みなど、下膳は職員と一緒に茶碗洗いなど出来ることをして貰い、協力して行っている。	委託業者が搬入した食材による献立であるが、入居者の好みや嚥下状態に応じて食材や食形に配慮している。入居者の相性や状況に応じてテーブルを分け、入居者のペースに応じた職員の声掛けや見守りで、完食される入居者が多い。各ユニットとも食器洗いや下げ膳等を生き生きとされる入居者の姿があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者の物を使用し、カロリー計算して栄養バランスにも配慮している。水分は3食の食事時にお茶と、10時15時に好みの飲み物、入浴後にスポーツ飲料、夜間は麦茶を用意して水分量に気を付けている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず、利用者様1人1人に合った歯磨きをして貰っている。義歯の洗浄は、声掛けしたり介助している。義歯は1日1回洗浄液につけて清潔を保っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄習慣を把握して、出来る限りトイレで排泄出来るように支援している。	全ユニットでトイレが10ヶ所に設置され、待つことなくトイレで排泄ができることが、排泄の自立を促進している。トイレでの見守りを拒否する入居者もあり、その人なりの排泄の手順を大切に支援している。また、ポータブルトイレ使用后、後始末を自分でとの入居者の思いに配慮した声かけに努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より便秘予防のため水分補給に努め、飲食物の工夫をしたり、散歩をして身体を動かしたり、必要時には腹部マッサージを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の希望に沿える入浴が出来るように支援している。	週2~3回、入浴を支援している。風呂きらいで声かけ時は拒否をする入居者もあるが、工夫した誘導で入浴している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の希望や体調に合わせ、自由に昼寝をして貰ったり、夜眠れない方には主治医と相談して、内服で対応したり工夫している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容と作用・副作用について薬局からの注意書を、スタッフが何時でも確認出来る場所に置いてあり、重要性を把握して服薬時の注意を確実にしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の楽しみやしたいことを把握して、個別に気晴らし等が出来るように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人1人の希望に沿って、買い物やドライブ等が出来るようにしている。	お花見、買い物、カラオケなど入居者の希望等に応じた支援をしている。マリンワールドへの外出は家族の参加や地域のボランティアの協力もあり、笑顔のスナップ写真はホームだよりに掲載されている。誕生日に家族と外食する入居者もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人1人の希望や力に応じて、お金を所持して使えるように、家族と協力して支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内の公衆電話が利用出来るように手助けしたり、年賀状や手紙のやり取りが出来るように、支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に季節の花を飾ったり、行事の写真や壁に貼ったり、リビングの壁に貼り紙で季節感を出して、居心地良く過ごせるように工夫している。	広い玄関はレトロ調の調度やグッズが置かれ、和やかな空間づくりをしている。天井が高く、広くゆったりとした共用空間や廊下には、机や椅子、ソファ、畳の間が設置され、空調や換気に配慮している。ウッドデッキや椅子に座って草取りができる畑も設置され、洗濯物の干し場となったり、季節の野菜づくりをしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファや椅子を置き、1人で静かに過ごす事が出来たり、会話して過ごすことが出来るようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に使用していた家具や使い慣れた物を持って来て貰い、今までの様に使えるように配慮して居心地良く過ごせるように工夫している。	ベット、タンス、洗面台が備え付けられ、入口に暖簾を掛けた居室やテレビや仏壇が持ち込まれ、家族の写真が飾られた居室もある。入居者のこだわりや入居前の生活を大切しながら、居室づくりを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下全体に手すりを取り付け、全体に移動できるように工夫している。		